



熟年夫婦の危機

「死別」愛する人を天に送るとき

日本ホーリネス教団 川越のぞみ教会牧師
家族と結婚のカウンセラー FFJ評議員

西岡 まり子



死別による喪失…

この人が、いなくなったら…そんなこと考えたくないほど、大切な人。結婚してそんな大切な人に出会いました。新婚の時に、夫の10日ぐらいの出張がたまらなく不安で孤独で、涙が止まらなくなってしまったのです。筆者はそんなやわでもないし、クールなのですが…。帰ってこなかったら…と喪失の不安に襲われたのです。

50、60、70代と、年齢が上がるにつれ伴侶を天に送る人は多くなり、75歳以上の女性は夫婦でいる方の数よりも、死別・離別による単身者のほうが多いとの調査結果があります。(2015年国勢調査) 男性の寿命が女性よりも6年短いこともあるのでしょうか(2018年調査)。人生の中で一番大きなストレスと言われる、伴侶との死別。あまりにも突然訪れるすさまじい悲しみかもしれません。また、3・11の東日本大震災のように、多くの行方不明者の家族は、死別さえも確認できないあいまいな喪失の中で、悲しむことさえも躊躇され、あの日から時間が止まってしまったような日々を悶々と過ごされている方々もおられることでしょう。

「いつも主にあって喜びなさい」(ピリピ 4:4) と、喜ぶことに心を向ける私たちは、悲しみに直面した時にどのようにその苦しみを表現してよいのか戸惑います。どうやっても喜べない時もあるのです。一番大切な愛おしい存在がいなくなってしまった時、たとえ永遠の世界にいることを確信していたとしても、辛いのです。寂しいのです。喜んでなんていられないのです。

